

つながり

2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功を目指して！！

東京都立七生特別支援学校
校長 大和田 邦彦
担当者 福永 顕
平成30年7月20日
第1号（通算1号）

オリンピック・パラリンピック教育通信『つながり』の発行に際して

2020年東京大会まで、およそ2年となりました。2016年（平成28年）から本格的に始まった東京都のオリンピック・パラリンピック教育推進事業も今年で3年目を迎えました。

これまで本校では、学校教育全体を通して、オリンピック・パラリンピック教育（*以下「オリ・パラ教育」と記す）を推進してきました。特に、国際交流やスポーツ交流では、児童・生徒に様々な人々と触れ合う経験の場を提供することができました。これまで特別支援学校と関わりの薄かった人々とのつながりを広げられたことは、「共生社会の実現」を使命とする学校にとって大きな財産となりました。

このように、『オリ・パラ教育』は、児童・生徒に様々な経験の場を、そして、学校には、社会とつながる大きなチャンスを与えてくれます。そこで、今年度は、このオリ・パラ教育通信「つながり」の発行を通して、保護者並びに福祉園の皆様と積極的に情報を共有し、これまで培ってきたつながりの輪を更に大きく、そして深く、広げていきたいと考えています。どうぞ、ご協力とご理解のほど、よろしくお願いいたします。

通信「つながり」に掲載された記事が、例えば、その日の食卓で、大人と子どもをつなぐ話題のひとつとなれますように。

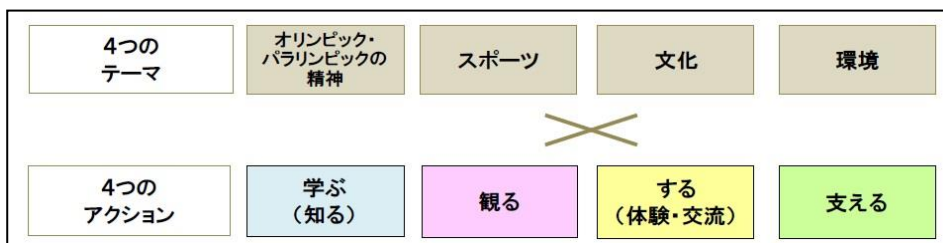


オリンピック・パラリンピック教育の基本方針について♪

今年度も、4つのテーマと4つのアクション（*図1参照）を組み合わせた多彩な取組を通して指導を行います。そして、オリンピック・パラリンピック教育を通して、子供たちの心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残すことができるように取り組んでまいります。

*レガシー<遺産>：過去から未来に受け継がれていくもの。

【図1】「4つのテーマと4つのアクション」の展開イメージ



<4つのテーマ>

- *オリンピック・パラリンピックの精神：勇気や友情、尊重といった価値を大切にする態度
- *スポーツ：スポーツに親しみ、スポーツを楽しむ態度
- *文化：我が国の伝統・文化や、異文化に親しむとともに、互いに認め合おうとする態度
- *環境：持続可能な社会の実現に向けて、主体的に環境保全活動に取り組もうとする態度

知識・技能の習得だけでなく、実際に観たり、体験したり、時には大会等を支える側になったりする活動を取り入れることで、学びを深めていきます。（*下線部分が4つのアクション）

今年度の主な取組について☆

今年度の重点項目は、『芸術教育の推進』です。自ら楽しんで絵を描いたり鑑賞したりできることは、自分の人生をより豊かなものにしてくれます。そこで本校では、今年度、1階に児童・生徒の優れた絵画作品を飾って鑑賞できるスペースを設けることにしました。

「自分の描いた絵が飾られて、みんなに観てもらえてうれしいな。」
「〇〇君の絵はとても素敵だな。自分ももっと上手に描けるようになりたいな。」

こうした子供たちの声をたくさん聞けるように取り組んでいきます。また、例えば、『オリンピック・パラリンピックに関するポスターの応募』など、外部団体が主催する展覧会等へ児童・生徒の作品を積極的に応募していく予定です。その際には、保護者並びに寮職員の皆さまに対して、ご協力をいただくことがありますので、どうぞよろしくお願い致します。

その他、外部団体を招聘した取組としては、

【スポーツ教育】

- ・ウィルチェアラグビーの体験（一般社団法人 日本ウィルチェアラグビー連盟）
- ・ラグビー体験（日野レッドドルフィンズ）
- ・タッチラグビーの体験（タッチラグビー日本代表）

【国際交流】

- ・ARC 東京日本語学校との交流（全学部で実施）

【教員研修】

・発達性協調運動障害に着目した運動指導について（筑波大学准教授 澤江幸則氏による講演）を計画しています。ご期待ください。

私とオリンピックの思い出～1964年東京五輪編～

☆記念すべき第1号は、大和田先生の思い出です！

私にとって最も古い記憶のオリンピックは1964年（昭和39年）の東京オリンピックです。高度経済成長期の真っただ中、日本中が高揚していたことを覚えています。当時通っていた保育所のお遊戯室の高いところに「カラーテレビ」なるものが設置され、色のついたテレビ放送で初めて見たのが東京オリンピックでした。全体的に赤みを帯びていた映像でしたが、白黒が常識だった時代に特別な何かが起こっていると感じさせるものでした。乗り物の絵本の表紙は、東海道新幹線・ひかり号。夢の超特急と言われ、それまでの乗り物とは段違いにカッコイイ列車に見えました。首都高速ができたのもこのときで、インフラ整備が一気に進んだのでした。国立競技場での入場行進、飛行機が描いた五つの輪、地元の円谷幸吉選手がマラソンで銅メダルを取ったこと、東洋の魔女と呼ばれたバレーボール女子チームが金メダルを取ったこと、ヘーシンクが柔道の無差別級で金メダルを取ったこと…。54年前のことですが、忘れられない記憶です。

今、東京はごみのないきれいな街だと外国から来た人たちの印象を聞きます。最近知ったことですが、先のオリンピックに向けて「道で痰を吐くのはやめましょう」とか、「ごみの投げ捨てはやめましょう」などと社会環境を改善していこうとする運動が展開されていたそうです。プラスチックのごみ箱の普及も進み、インフラの整備と環境美化が進んだのもオリンピックのお陰だそうです。

今回のオリンピック・パラリンピックでは、共生社会の実現も謳っています。スポーツの祭典であると同時に、その国を大きく変えていく力をもつのもこの競技大会です。共生社会の実現につながる2020の大会を夢見ています。

親からもらった東京オリンピック 100円記念硬貨を使ってお菓子を買ってしまったのが後に発覚し、叱られたことも今は懐かしい思い出です。

